

さいたま市を日本の理想都市にするために

「理想都市実現に向けた行動計画 —マニフェスト工程表—」の

4年間の取り組み状況と実績評価を公表します



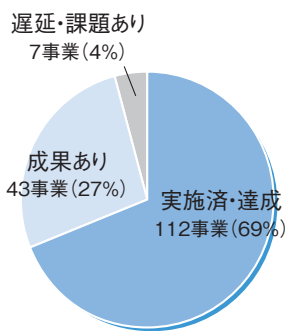
本市では、「理想都市実現に向けた行動計画—マニフェスト工程表—」の着実な実施を、市政の最重要課題として取り組んできました。平成21年3月で工程表に掲げた取り組みを終え、平成17年度～20年度の4年間の取り組み状況と成果を基に実績評価を行い、その結果を取りまとめました。

実績評価の方法

行動計画に示した162事業について、平成17年度～20年度の4年間の取り組み状況や成果に基づき、市の重要な政策を審議する都市経営戦略会議において、「実施済・達成」「成果あり」「遅延・課題あり」の3段階で実績評価を行いました。

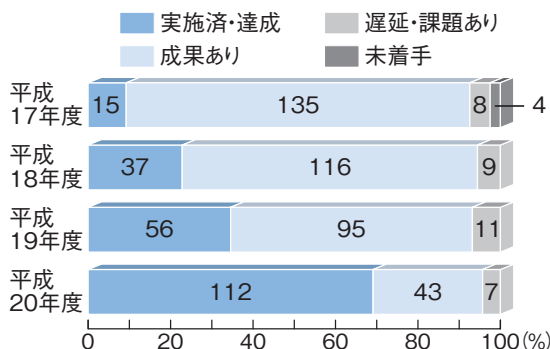
全体の実績評価結果

全体の96%の事業が、「実施済・達成」又は「成果あり」となっています(左表のとおり)。



進捗状況の推移は、平成17年度にはすべての事業が着手済みとなり、平成20年度末には「遅延・課題あり」が7事業あるものの、「実施済・達成」が112事業、「成果あり」の43事業を含めると、162事業のうち155事業が、おおむね順調に達成することができました(右下表のとおり)。

4年間の主な成果



8つの基本政策▼環境 ▼健康福祉 ▼教育子育て ▼交通都市基盤 ▼地域経済 ▼安心安全 ▼交流 ▼改革の各分野において、おおむね順調な成果をあげています。主なものは次のとおりです。

「環境の理想都市へ」

●緑豊かな公園の整備

見沼の自然を生かした公園整備などを推進し、合併記念見沼公園、七里総合公園がオープンしました。

「健康・福祉の理想都市へ」

●保健所等複合施設の整備

保健所と、保健衛生・環境

4年間の成果ベスト5

第1位

子育て支援策の充実

「子育て日本一の都市」を目指し、様々な支援事業を実施

■保育所等待機児童の解消に向けた取り組みの推進

保育所などの整備を促進し、その定員を4年間で2,250人(認可保育所1,455人、ナーサリールーム795人)拡大しました。また、平成21年度からナーサリールームなどの保育料を、認可保育園の保育料と同程度までに軽減しました。さらに、放課後児童クラブの小学1～3年生の受け入れ児童数を、4年間で1,276人拡大しました。

■その他の子育て支援事業の推進

育児相談などを行う子育て支援センターを4年間で25か所整備しました。



▲子育て支援センター

第2位

教育施策の充実

「日本一の教育都市」を目指し、様々な教育施策を充実

■基礎学力・体力の向上に向けた取り組みの推進

「学びの向上さいたまプラン」を策定し、小中一貫潤いの時間「英会話」などを実施しました。また、体育授業サポーターをすべての市立小学校に、少人数指導サポーターをすべての市立小・中学校に、臨時教員補助員をすべての市立小・中学校に、それぞれ配置しました。

■教育環境の整備推進

普通教室への空調設備の整備を進め、すべての市立小・中学校と特別支援学校、市立高等学校への整備を完了しました。また、学校図書館司書の配置と学校図書館用コンピュータの整備を完了しました。さらに、市立浦和高等学校内に浦和中学校を新設し、中高一貫教育を開始しました。



▲小・中一貫潤いの時間「英会話」

公害等に関する検査研究機関である健康科学研究センターからなる複合施設を開設しました。

●市民医療センターの開院



地域医療連携の中心的役割を担い、安全で良質な医療を行うさいたま市民医療センターを開院しました。

「教育・子育ての理想都市へ」

●小学校校庭の芝生化

児童の体育活動の活発化を目的に、小学校校庭の芝生化を推進し、つばさ・大宮・神田・岸町・谷田・三室の各小学校で芝生化を実施しました。

「交通・都市基盤の理想都市へ」

●西大宮駅の開業

土地区画整理事業により地域拠点づくりが進められている川越線の日進・指扇駅間に西大宮駅を設置しました。

「地域経済の理想都市へ」

●企業誘致の推進

「まもり、まねいて、そだて

ます」を行動テーマに、積極的な企業誘致活動を展開し、約4年間で、外国・外資系企業10社を含む54社の立地が決定しました。

「安心・安全の理想都市へ」

●特別高度救助隊の配備

大規模な地震災害や生物・化学テロ災害などに迅速・的確に対応するため、高度な救助技術と資機材を備えた特別高度救助隊「さいたまブレイブハート」を、大宮浦和消防署に配備しました。

「交流の理想都市へ」

●市民交流拠点の整備

市民交流の拠点となる多様な機能を有する複合施設の整備を進め、プラザノース、片柳コミュニティセンター、プラザウエスト、コムナールを開設しました。

「改革の理想都市へ」

●徹底した行財政改革の推進

行政改革推進プランに基づき、指定管理者制度の導入、民間委託の推進、職員数の削減などを実施しました。こうした健全財政の維持に向けた取り組みの結果、平成18年度予算編成時からの累計で、約69.5億

円の効果がありました。

●窓口申請パッケージ化事業の実施



引越しなどのライフイベントの際に、必要な届け出や申請を受け付けて処理するワンストップ窓口「パッケージ工房」を、全区役所に設置しました。

「遅延・課題あり」と評価した事業

用地取得の遅れなどにより、盆栽関連施設や(仮称)岩槻人形会館の整備、浦和駅周辺鉄道高架化事業などに遅延が生じています。

なお、これらの事業は、今後課題解決に全力をあげて取り組み、事業を着実に達成していきます。

実績評価などは、各区1階情報公開コーナー、市ホームページでご覧になれます。

詳しくは、都市経営戦略室 (☎829・1064、☎829・1985)へ。

第3位 「安心・安全なまちづくり」の推進

●市民に身近な安心・安全の確保

すべての市立小学校と特別支援学校に警備員を配置しました。また、各区で青色回転灯を装備した公用車による青色防犯パトロールを開始しました。さらに、すべての公共施設に、AED(自動体外式除細動器)の設置を完了しました。

●災害に強いまちづくりの推進

避難場所や防災拠点として重要な機能を果たす市有建築物の耐震化を推進し、小・中学校の校舎など154棟の耐震化を完了しました。なお、平成25年度までに、すべての小・中学校の耐震化の完了を目指します。



▲学校に配置された警備員

第4位 大都市にふさわしい都市基盤の整備

●政令指定都市として魅力あふれるまちづくりを推進

武蔵浦和駅周辺地区での市街地再開発事業や、東岩槻駅の駅舎橋上化と南口の開設など各駅周辺の基盤整備を行いました。また、大宮駅周辺地域では、氷川参道の整備を進め、歩車分離工事が、6月末に完成する予定です。



▲武蔵浦和駅第4街区

第5位 オリジナリティーの発揮

●本市の魅力を一層向上させる取り組みを推進

サッカー・盆栽・鉄道・人形・うなぎ等本市が誇る地域資源を活用した事業を推進し、「さいたまシティカップ」の開催、「盆栽関連施設」の整備着手、「鉄道博物館」の誘致・開館、伝統産業活性化策の推進などを実施しました。



▲さいたまシティカップ2007